きずな

文化財保護センターだより

第8号　平成5年11月1日

財団法人　岐阜県文化財保護センター

〒501-02　岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395　TEL(FAX)05832-7-8980

●もくじ

底津遺跡　第6号竪穴住居跡……1
徳山の遺跡発掘調査に期待を……2
発掘状況……3
トピックス……5
タイムスリップ探検隊に参加して7
センターだより……8

底津(そこづ)遺跡　第6号竪穴住居跡

武儀郡洞戸村栗原で調査中の、底津遺跡で確認された縄文時代中期末（約4,000年前）の竪穴住居跡です。直径約5mの円形で、深さ30～50cm程まで掘り込んであります。入口と思われる位置（写真手前）には、埋甕(うめがめ)が設置してあります。また、中央には石囲炉（写真中央）があり、その手前には作業台と考えられる台石も埋め込んであります。この時代の典型的な住居跡です。

徳山の遺跡発掘調査に大きな期待を

岐阜県歴史資料保存協会
会長　太田　三郎

平成３年文化財保護センターが、開設されて着々その実績を挙げ、中でも徳山の遺跡調査が長期計画で続行されております。徳山を第二のふるさとと思う私として、心から感謝しています。

昭和44年に本校と分校５つを持つ、全国屈指のへき地、徳山小学校に勤務を命ぜられ、村では、徳山村史の編纂も課せられました。しかし、10月には、へき地教育全国大会徳山中会場の事務局長の仕事も待っていました。従って、村史の編纂は、これが済んだ11月から３年計画で始めました。

メンバーは、素人の徳山小の職員ですが、幸い大牧教育長と加藤事務局長が熱心で助かりました。また、地元の人も協力的でした。「今度の校長は変わっとるな、葬式の写真を撮っとる。」。そのうちに「山芋は掘ってやるでな、村史頼むぞ。」など、励ましも受け、教育現場の余暇を使って努力しました。村内史料は、度々の火災で焼失し、村外の史料収集に力を入れ、根尾の専念寺、西光寺、各務原の法蔵寺、滋賀県の菅並の洞寿院、福井県の誠照寺、西福寺、長慶寺、東京深川の長慶寺等まで足を運びました。しかし、学校教育は、一日もゆるがせにできません。分校を重視した合同学習など特色ある学校づくりに取り組み、その余暇の村史編纂です。幾つかの問題を残しながら三年半かかって仕上げました。特色は、徳山村の生活、民俗を重視し、民謡のソノシートも作りました。残した問題点

①　縄文時代の生活未調査　宮ヶ原遺跡等の表面採集で、100余の土器片と10数個の石器類を見つけました。これらの遺跡の正式発掘に期待していました。現在発掘調査中の上原遺跡で、縄文中期の竪穴住居跡が発見され、当時の生活が解明されつつあります。

②　弥生時代から古代の生活の解明　この時代の遺跡・遺物を発見することはできませんでしたが、今度の調査で、はいづめ遺跡や上原遺跡から弥生前期の土器が発見され、稲作は不可能でも、何らかの栽培生活が解明されるでしょう。

③　徳山城と徳山陣屋の調査　徳山城の築城は、徳山金吾貞信（応永11年11月６日卒）が南朝の新田義貞に属していた頃と思いますが不明です。城跡は、５段をなして、石垣の一部が残っているようです。その規模もわかりません。南の方に出城（城山城跡）が残っています。ぜひ発掘調査して下さい。

徳山陣屋は、徳山五兵衛則秀（慶長11年11月23日卒）が、慶長５年、徳川家康に召されて旧領徳山と更木など５千石余の領主となり、幕府の御噺衆として奉仕していました。その頃、陣屋を徳山城下と雪のない更木に造ったと思われます。徳山陣屋の大体の位置や石垣も一部残っています。発掘調査に期待します。

④　その他　徳山家の祖先坂上貞守、二条歩危と塚、新田義貞の櫨原死亡説など、ただの伝説とも考えられない気がします。

３年前の夏、岐阜会館で芸文岐阜主催の知事とのガヤガヤ会議で、私が要望した埋蔵文化財センターが、翌年４月に発足し、責任を感じています。一層の充実発展に期待します。

発　掘　状　況

■西田遺跡（大野郡丹生川村）発掘調査

（西田遺跡発掘風景）

西田遺跡は、荒城川上流の右岸段丘上にあり、約5,000㎡の広がりを持つ縄文時代の遺跡です。丹生川ダム水没予定地内のこの遺跡のうち、今年度は3,000㎡を11月までの予定で発掘調査しています。

現在、地表より20～30cm下の層（30cmほどの厚み）から、縄文時代後期（4,000～3,000年前）、早期・前期（9,000～5,000年前）の遺物・遺構が出土しています。ただし、後世の耕作や家屋の建設などにより広範囲で遺物を含む層の破壊がなされています。

(1)　縄文時代早期・前期の遺構・遺物

屋外で使用されたと考えられる「焼礫集積遺構」（直径約80cm～１m）を、７基確認しています。いずれもやや深い掘り込みがあり壁部分の土や石および中央の円礫には、焼けた痕が見られます。また、底の部分に炭化物を多く含んだ遺構もありました。

土器は破片がほとんどですが、3,000点ほど出土しています。早期の土器の特徴を示す繊維を多く含むものや楕円文・山形文などを中心とした押型文土器が多く出土しています。

また、前期と考えられる土器もあり、羽状縄文の深鉢１個がほぼ完形で出土しています。

石器類では、早期のものと考えられる石鏃や磨石なども土器に伴って出土しています。

(2)　縄文時代後期の遺構・遺物

現在８軒の住居跡が確認されています。石囲炉を持つ住居もありますが、いずれもやや小型で、そのうち１軒は一辺が２ｍほどの方形の竪穴住居です。また、大小様々な土坑のうち、まとめて３点の磨製石斧を検出したもの、クリ・トチ・クルミなどの炭化物を検出したものもあります。

遺物の多くは破片ですが、５万点ほど出土しています。その中には、耳栓（耳飾り）・土偶片などの土製品、磨製石斧・打製石斧・石鏃・凹石や石刀・石剣・勾玉・玉などの石製品が数多く出土しています。遺物のうち、凹石の多さに比べ、石錘が極端に少ない特徴が認められます。

■荒城神社遺跡（吉城郡国府町）発掘調査

荒城神社遺跡は、荒城川右岸の段丘および扇状地にあり、荒城神社の境内を中心に、縄文時代の遺物が散布していることで知られています。昭和23年頃、神社東側の道路改修工事の際、縄文時代の遺物と住居跡の一部が発見されています。またその他に、神社付近から採集された遺物が残されていますが、いずれも発掘調査によるものではありません。今回の発掘調査は、県道鼠餅古川線の改良工事に伴うもので、５月より道路の拡幅部分（600㎡の第１次調査を行い、現在本道部分（350㎡）の第２次調査を継続しています。

(1)　遺構について

限定された調査範囲の発掘で、耕作による攪乱や不安定な堆積状況もあり、遺構の検出は難航しています。

調査区の東端で、川原石と山石を組み合わせた方形の石囲炉を１基確認できました。大きさは現状で約70cm×80cm、高さは最大の石で約40cmです。この炉に伴う竪穴住居跡では、柱穴と考えられるピットを検出しました。また、直径約１ｍの土坑が群をなしていました。その中には装飾品である玉類が出土したものもあり、土壙（墓穴）群とも考えられます。

（石囲炉の検出状況）

(2)　遺物について

詳しいことは今後の整理作業の結果を待たなければなりませんが、縄文時代中期から後期（5,000～3,000年前）の遺物が、約２万点出土しています。土器は、中期の深鉢形土器や後期の浅鉢形土器など、ある程度復元できるものもありますが、ほとんどが破片です。土偶の破片も出土しています。

石器としては、石鏃・石錐・打製石斧・磨製石斧・凹石・石皿・石錘・砥石等、縄文人の精神生活を知ることのできる石刀・石棒・石製装身具・異形石器などが出土しています。

■底津遺跡（武儀郡洞戸村）発掘調査

底津遺跡は、美濃地方を南北に流れる長良川と合流する板取川を約17kmさかのぼった洞戸村栗原字底津にあります。遺跡は、南に開けた左岸段丘上（標高約175m）にあり、戦前は畑・杉林として利用されていました。昭和54年度の土地改良工事の際、縄文時代早期～後期の土器・石器類が採集されていました。

(1)　遺構について

４月末からの調査により、現在、竪穴住居跡10軒、竪穴状遺構２基を確認しました。竪穴住居跡の平面形は直径５ｍ前後の円形で、約30～50cmの掘り込みが見られます。住居の床面は、少量の黒褐色土を混入した黄褐色土で貼り固めてあります。石囲炉はほぼ中央に位置し、４本の主柱の穴があります。

竪穴状遺構は、平面の形が直径４～５ｍの円形で、摺り鉢状に掘り込んであります。また底の中央部分には、土坑が確認できました。出土した土器は縄文時代中期末のもので、この時期における摺り鉢状の竪穴住居跡は全国的に極めてまれで、住居以外の機能を持っていた遺構と考えられます。

(2)　遺物について

出土している土器の多くは、縄文時代中期（約5,000～4,000年前）の末に関東地方で使用された加曽利Ｅ３新式と同時期のものです。県内では、可児市・美濃加茂市を中心とする木曽川周辺の遺跡で出土している土器に類似しています。これらは、キャリパー形となる深鉢形土器が中心です。

石器の特徴的なものとして、敲石をあげることができます。各住居跡より１～３個出土しており、棒状の自然礫を素材としています。片側あるいは両側のつぶれた痕や剝離した面は敲き打つ時にできたと考えられます。また、磨石も多く出土しており、この遺跡で多くの植物性の食料等を調理していたと考えられます。

石器のもう一つの特徴として、美濃地方西部で多く見られるチャート製以外に、現在も遺跡の東側を流れる底津川より採集できる頁岩製のものも多く含まれます。頁岩製の石核（石器を作るもととなったもの）や、これから剥ぎ取られた剥片のうち、同じ個体と考えられるものもあります。ただしこの石材を用いた定型的な石器は1点も出土していません。多くのものは、大きめの幅の広い縦長の剥片をそのまま利用していたとも考えられます。

■寺屋敷遺跡（揖斐郡藤橋村）発掘調査

本年度の徳山ダム水没予定地の発掘調査は、継続調査の上原遺跡・山手宮前遺跡と、8月より寺屋敷遺跡の調査を実施しています。

寺屋敷遺跡は、揖斐川本流（東谷）と磯谷の合流する地の尾根上にあり、旧徳山村では「寺屋敷」があったとの伝承を残している地です。これまでの調査により、灰釉陶器片と鉄釘などが出土しています。灰釉陶器片は平安時代のものと推定されるものです。また、調査の進展によって扁平な川原石を用いた礎石が検出できました。礎石の間隔は、東西3間と南北2間が確認されていますが、今後さらに広がる可能性もあります。

（寺屋敷遺跡発掘風景）

徳山の古代については、山手地区の加茂神社（10世紀半ば）と上開田地区の六社神社（12世紀半ば）の記録があるのみです。今回の調査で確認された礎石は、隣接する磯谷口遺跡（平成2年度調査）とほぼ同時期のものです。今後、出土遺物の時期等を調べることで、徳山の古代の歴史の一部を埋める資料になればと考えています。

トピックス

■装身具等の石製品（国府町荒城神社遺跡出土）

縄文時代の石製品の中には、装身具として使用されたと考えられる石器があります。その種類も、髪飾り・耳飾り・首飾り・胸飾り・腰飾りなどがあり、埋葬された人骨とともに出土し、装着状況の確認された事例も報告されています。

（荒城神社遺跡出土の石製品）

首飾り・胸飾りなどの垂飾品は、旧石器時代末から登場するもので、動物の牙や歯に孔をあけて用いたのが原形と推定されています。縄文時代早期末～前期初めの頃になると、盛んに作られるようになり、玉の形も丸玉・管玉・勾玉などさまざまなものが現れます。また縄文時代中期からは、大珠と呼ばれる10cm以上のものも作られています。

飛騨地方で石製装身具がいくつか出土した調査例としては、高山市の寺東遺跡・垣内遺

跡などがあります。前者からは、硬玉製大珠を含む玉類7点、装飾品と思われる石製品1点が出土しています。また後者からは、有孔石製品1点、玉類6点が出土しています。

今回、荒城神社遺跡で出土している石製装身具は、完形品・未製品・破片など9点で、いずれも孔があけられており、土器の出土状況から、縄文時代後期のものが多いと考えられます。材質は、砂岩・粘板岩・流紋岩で、硬玉製（ヒスイ）のものも1点（写真左上）含まれています。このうち勾玉の未製品（写真右より2番目）と思われるものは、製作過程を知る上で貴重な資料と考えられます。

縄文時代の装身具は、単なるアクセサリーとしてではなく、何らかの精神的な習俗として使用されたと考えられます。

石製品の中には、装身具以外にも何らかの精神生活に使用したと考えられる遺物がいくつかあります。石棒・石刀・石剣・石冠などが知られていますが、荒城神社ではこの他にめずらしい異形石製品（写真右端）も出土しました。長さ5.3cm、幅2.8cm、厚さ1.5cmの楕円形で、両面から縦長の切り込みがあり、中央部に数本の横線が施されています。石材は流紋岩です。孔の形から見て垂飾品の可能性は薄く、装身具とは思われません。この形の異形石器と同形のものはほとんど知られておらず、特殊な遺物と考えられます。

今後、これら装身具などの石製品について、石材の産地や使用方法などを調べていきたいと考えています。

■ピット中のフレイクの集積（藤橋村山手宮前遺跡出土）

揖斐郡藤橋村の徳山地区で調査中の山手宮前遺跡より、興味深い遺構が検出されました。

この遺構は、ピットと呼ばれる地面に掘りくぼめられた穴の中に、18点ものチャートのフレイク（剝片）が折り重なるように出土しました。フレイクとは石器製作の素材として石核（コア）より規則的に剝ぎ取られた剝片をいいます。徳山地区では、平成3年度に調査した塚遺跡で、打製石器とその剝片（総点数7点）が重なって出土した例はありますが、良質でしかも同一のチャートの石核から剝離されたフレイクが集中して確認できたのは、今回が初めてのことです。

これら同一の石核から剝離された18点のフレイクのうち、接合するのは、現在のところ1組（2点）のみであることから、選りすぐったフレイクであることがわかります。

山手宮前遺跡では、これまでの調査で石鏃・石錘・打製石斧・磨製石斧などの完成品や未製品、フレイクなどが出土しています。石器の母体となる石核は出土していません。また、フレイクの数も完成品に比べそれほど多くありません。このことから、他の遺跡で石核から剝離させ、山手宮前遺跡にはフレイクだけが持ち込まれたのではないかとも考えられます。

今回のフレイクは一括して埋納された可能性もあり、特殊な遺構であることも考えられます。縄文人の活動を裏付ける貴重な資料として、その性格の解明に努めたいと思います。

（一括して出土したフレイク）

タイムスリップ探検隊に参加して

■本年度も7月28・29日の両日、「タイムスリップ探検隊」を公募して、親子体験発掘を1泊2日で実施しました。小学校5・6年生と保護者のみなさん22組49名の方が参加されました。

第1日目は、揖斐郡藤橋村鶴見の「ふじはし星の家」で縄文土器の水洗い・拓本とりと藤橋城で開催されている「徳山の縄文展」を見ながらの学習会を行いました。第2日目は旧徳山村内の上原遺跡で、作業員さんとともに発掘体験をしました。

参加された2組の隊員の感想を紹介します。

▲揖斐郡　養基小学校　6年生

今まで博物館でしか見たことがなかった土器や石器だけど、実際に掘ってみると、なかなか石と土器のちがいがわかりませんでした。土器や石器なんて、ぼくたちでは絶対さわれない貴重なものだと思っていたけど、自分の手でさわれてとてもうれしかったです。とても楽しい企画でした。

お父さん

こどもと一緒に物見遊山ぐらいのつもりで参加しましたが、自分の住んでいる揖斐谷の過去を知ることができ、観光資源としてみていた藤橋村（徳山）での生活ぶり、地形（自然）との結びつき……それが現在までつながっているという実感を得ることができました。

先人の生活を見つめ直すことは、結局、現在・未来の揖斐の姿を描くことになると痛感しました。まず、住んでいる人が住みよいむら（町）づくりをするために、先人たちに学び、考え、実行しなければならないと気付くことができました。すばらしい企画で、今年は特別の夏休みになったと、こどもと一緒に

喜んでいます。

▲本巣郡　牛牧小学校　6年生

心に残ったことは、やっぱり大きな土器のかけらが見つかったこと。それに、土器と石はたたくと音がちがうということを初めて知ったことでした。土器のような色なのに、たたいてみると石でした。今と同じような石があったということがわかった。石はくさらないのかなと思いました。

探検隊に参加して、縄文人について知りたいことがいろいろ出てきました。

・土器はどの地方でよくとれるのか。
・縄文人にしんせきはあったか。
・縄文人の家族は平均何人か。
・縄文人の住んだ所に地名はあったのか。
・縄文人はどんな道具で食事をしていたのか。
・縄文人はどんな墓でねむっているのか。

お母さん

探検隊に参加して、すがすがしい気持ちになり、本当によかったというのが実感です。何も勉強せず参加したのですが、文化財の大切さ、そして地道にコツコツと調査活動をしてみえることを知りました。また、徳山で大昔からの生活があったこと、これからダムの下に入ってしまうことなどを考えると、何が大事なのか整理がつかなくなってしまいました。

センターだより

●発掘作業に参加して（その３）

「退職してから２年が経過したころ、以前から興味のあった発掘作業の募集があり、参加しました。ＴＶでの遺跡発掘をイメージしていた私は、あまりの重労働にいつまで続けられるかと思ったのが正直な気持ちです。三日坊主になるのが嫌でどうにか克服しましたが、体が慣れてからは、楽しみがわかるようになりました。」

「厳しい暑さに加え、固い土砂ばかりで何も出ない時は、確かにえらいけれど、何千年も前の誰かが使っていた石器や土器を発見した時の喜びはまた格別です。遠く中国から伝来したと思われる遺物があったり、古代人の心に触れられる感動はとても言葉には表せないものがあります。文化の解明・保存などに参加、協力できるのは意義深いことです。」

「考古学に多少の興味と関心があったので、発掘作業に参加しました。発掘してみなければわからない地中の物に期待をもち、グループの５名で一緒に進める作業に、楽しさと親しみが増しました。たとえ小さな破片でも、掘り出した時の喜びは格別なものです。汗水流して働くことの尊さは、つらさを通り越して得難いものだと思いました。」

発掘作業風景（八幡町）

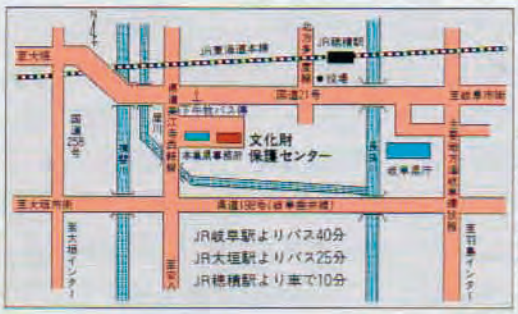
●日誌

7．2　富山大学助教授前川氏・同宇野氏他学生30名来所
　　名古屋大学教授渡辺氏、西田遺跡指導
5－8　埋蔵文化財発掘調査基礎講座、前期日程開催
6　大野郡校長会７名、西田遺跡視察
7　東白川村教育長田口氏ら陰地遺跡視察
9　国府町教委・丹生川村史編纂委員12名、西田視察
11　「荒城神社遺跡」現地説明会開催（参加者105名）
12～15埋蔵文化財発掘調査基礎講座、後期日程開催
14　奈良大学助教授泉氏ら６名来所
15　水資源徳山ダム副所長権藤氏ら６名来所
20　日本道路公団名古屋建設局、西ヶ洞遺跡視察
27　八幡こども劇場30名、勝更白山神社遺跡発掘体験
　　愛知学院大学教授大参氏、船山北古墳群指導
28　県監査委員・郡上県事務所６名、西ヶ洞遺跡視察
28～29タイムスリップ探検隊（藤橋村鷲見・上原遺跡）
8．11　南雄子小学校長中島氏等、船山北古墳群視察
17　新潟県朝日村教育委員会、立木・石川氏来所
19　関市教育委員会篠原氏、船山北古墳群視察
24　静岡大学名誉教授加藤氏、上原遺跡指導
26　大垣市教育委員会中井・鈴木氏来所
　　愛知学院大学教授大参氏、上原遺跡指導
9．10　小坂町阿弥陀堂遺跡、発掘調査開始
13　縄文土器研究会日大助教授鈴木氏ら９名来所
16　岐阜大学教授梶田氏、上原遺跡指導
21　美濃教育事務所高橋氏他12名、底津遺跡視察
　　愛知学院大学教授大参氏、船山北古墳群指導
22　東白川村史研究会10名、陰地遺跡視察
29　千葉県埋文センター花香・田野氏来所
30　神奈川県土地建物保全協会田村氏、陰地遺跡指導
10．4　神奈川県埋文御堂島氏・各務原市埋文西村氏来所
4－14洞戸小・中学校、飛瀬遺跡にて発掘体験（５回）
31　西田遺跡現地説明会実施

編集後記

太田先生には、お忙しいところ快く原稿をお寄せいただきありがとうございました。
先生が期待しておられる徳山の発掘調査は、昭和61年度から県教員委員会によって始められ、平成３年度からは当センターが、担当している遺跡であります。

昨年の夏はギラギラ天気続きの酷暑でしたが、今年は雨の日が多い記録的な冷夏になりました。立秋を過ぎてもなお降り続く長雨と、度重なる台風の襲来に全国各地で災害が続発しました。九州を始めとする被災地の皆さんに心からお見舞い申し上げます。



近くの輪之内町は懸崖菊の生産で全国一を誇っています。その一鉢がセンターの玄関で見事に咲き揃い薫芳を漂わせています。

暦の上ではもうすぐ立冬です。今年度の調査期間も残り少なくなり、長雨で遅れた発掘作業の追い込みに、関係の方々はやきもきしておられることと思います。作業員の方々もどうかお体に気をつけて頑張って下さい。